

コミミズク

Asio flammeus (Pontoppidan)
フクロウ目・フクロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

田園生態系の食物連鎖の上位に位置する種である。同様の環境に生息するトラフズクより記録は多いが、夜行性のため調査が十分とはいえない。これまでの記録地は、河川敷とその周辺に限られている。

種の特徴

全長 35～41 cm。トラフズクに比べ羽角は短く、顔盤は淡灰褐色で目は黄色。体の下面は縦斑だけで、交わる横斑はない。夕方から活動してネズミ類等を捕らえるが、昼間に活動することもある。

分布

冬鳥として、全国の海岸や水田、川岸の湿った草原に渡来する。本県では、主に九頭竜川や北川等の下流域を含む河川敷と、その周辺の水田や草地で越冬する。

生息を脅かす要因

河川敷内の草地の減少に伴うネズミ類の減少が挙げられる。また、フクロウ類は野鳥カメラマンの撮影対象として人気があることから、インターネット等による生息情報の拡散は、静かで落ち着いた生息環境の消失を招く。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、高野（2015）、中村・中村（1995）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○						○						○

アカショウビン

Halcyon coromanda (Latham)
ブッポウソウ目・カワセミ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

自然度が高い環境に生息するため、存続基盤が脆弱である。夏鳥の中でも記録は多く減少傾向にはないが、他県の状況を見加えると、今後の動向に注目する必要がある。

種の特徴

全長 27.5 cm。嘴は大きくて赤く、体の大部分が黄褐色を帯びた赤色で、とても美しく目立つ。浅い水の上にかぶさる横枝に止まり、小魚、カエル類、トカゲ類、サワガニ等の小動物を、大きな嘴で捕獲する。

分布

夏鳥として北海道～南西諸島に渡来し繁殖する。本県では県内一円の溪流沿いの落葉広葉樹林に生息し、「キヨロロロロ・・・・」と尻下がりの鳴き声で存在に気づくことが多い。

生息を脅かす要因

よく茂った落葉広葉樹林の保全と、多様な餌動物が生息できる環境の保全が必要である。また美しい種であるため、野鳥カメラマンの格好の被写体になることが多く、インターネット等による生息情報の拡散が起こらない配慮が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、高野（2015）、中村・中村（1995）、叶内ら（1998）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○

アリスイ

Jynx torquilla Linnaeus
キツキ目・キツキ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県では、中池見湿地、若狭町の中山のカヤ田、三方五湖や北潟湖、河川敷等の里山の水辺にあるヨシ原や低木林で確認されることが多いが、記録数は少ない。このような環境は決して多くないため、生息環境が脆弱である。

種の特徴

全長 18 cm。全身灰褐色で黒褐色や茶褐色の細かい複雑な斑がある。細く長い舌を伸ばし、アリの好んで食べる。ほかのキツキ類のように木の幹に垂直にとまることは少なく、普通の小鳥のように横枝にとまる。

分布

北海道や東北の一部で繁殖し、本州以西の平地林や藪のある農耕地、ヨシ原等で越冬する。本県では冬鳥として、木が疎らに生えた草原やヨシ原がある林縁部等で確認されている。

生息を脅かす要因

本県における主要な生息環境であるヨシ原や高水敷の樹木が消失すると、生息環境が減少することから、ヨシ原や河畔林の保全等が必要である。一方で、記録が少ないことから、生息可能地で標識調査を行う等、生息状況を把握する調査も必要であろう。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、大西ら（2014）、高野（2015）、中村・中村（1995）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○					○		○				○

鳥類